

プレミアム花壇部門

総 評

花壇は天候の影響を免れることができないので、活動にかかわる人々が知恵を出し合いそれぞれの花壇の環境条件、立地条件に合った植物を選び、管理の手間を減らすマルチングなど様々な工夫をして花を育てられており、対象の8花壇は「さすがにすごい花壇！」と感心させられました。

雨、過湿に弱いペチュニアですが、這い性で降雨時に花が閉じるので花が傷まない、花柄が自然に落ちるので、花柄摘みが不要のペチュニア・さくらさくら、ペチュニア・桃色吐息を植栽されているところが数か所あり、品目だけでなく品種へのこだわりがうかがえました。

コンクールに合わせた花壇作りではなく、自分たちが楽しめるように取り組んだ所、デザインをグリーンキーパーだけではなく各区画を家族やグループにまかせた所もあり、花壇を通して地域との交流が行われていました。「高齢化が進行し地域の花緑活動の担い手となる次代の人材への継承が課題。」と言われた所もいくつもありました。

涼しげな星形の花を咲かせるイトマ、強健で美しい花を咲かせるキョウチクトウ、性質が強く鮮やかな花が長期間咲き続ける宿根ロベリア、植物全体が赤～紫色を帯び紅色の実をつけ大きく育つトウゴマ、白い縁取りの葉が美しい初雪草、花色が変わるランタナなど有毒植物が花壇に見受けられました。子供やペットが直接触れない場所に植栽し、作業の際ゴム手袋を着用し、枝葉の処理等取り扱いに注意が必要です。

最優秀賞評

射水市の「小杉花作り同好会」の花壇が3年連続最優秀賞を受賞しました。花壇の素晴らしさはもちろんのこと、地域の幼稚園児、デイサービス利用者などと連携し種ダンゴ作りから植栽まで行う、ポケット花壇と称した参加型の花壇の取り組みも評価されました。花と緑に触れ、育てる楽しさ、花咲く喜びを与えてくれていることでしょう。

メイン花壇には樹木や宿根草のほかカラーリーフや高低差のある一年草を植栽しており、デザイン性の高さも評価されました。

(審査委員長 舘 睦美)